

内閣三九

明治三十七年十二月二十二日

内閣總理大臣

法制局長官

外務大臣

大藏大臣

海軍大臣

文部大臣

逓信大臣

内務大臣

陸軍大臣

司法大臣

農商務大臣

内務大臣請議京制及武藏縣設置法律案等審査スルニ元來東京ニ特別市制ヲ行フハ適當ノ制度ナリト認ムルコト能ハス因テ現今東京府ニ屬スル郡

三八

市ヲ分離シ市ヲ以テ京トシ郡ヲ以テ武藏縣トシ而シテ從來警視廳ニ屬スル警察及監獄ノ事務ハ依然警視廳ノ管理トシ從來東京府地方税ヲ以テ支辨シタル費用ハ之ヲ京及縣ノ聯帶支辨ト為サントスルニ在リ右京制案ハ首トシテ市制ニ據リテ立案シ而シテ東京ニ特別必要ノ條件ヲ加ヘタルモノニシテ不都合無之且前期議會ニ於テ政府委員ヨリ東京市ノ如キ大都會

ニ於テハ今一層善良ナル制度案ヲ調査シ議院ニ提出スヘシト明言シタル由ニ付議會ニ提出セラレ可然從來ノ東京市ヲ分立スルトキハ武藏縣設置法律案モ必要ニ付是亦議會ニ提出セラレ可然ト認ム

但東京市ヲ京トスルハ名稱穩當ナラスト思考スルニ由リ京制ハ東京都制ト修正セリ其他必要ノ修正ヲ加ヘタリ又東京都及武藏縣聯帶支

用ノ費用ニ關スル法律案ハ主務省ヨリ別ニ提出スル筈ナリ

法律案

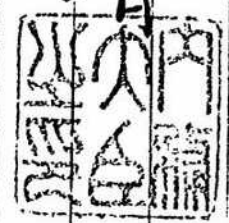
呈案附箋ノ通

法制局第一〇〇号

秘甲第二八四号

別帝京制及武藏縣設置法律
按等ニ關スル件提出ス
明治廿七年十二月十一日

内務大臣子爵野村靖



内閣總理大臣伯爵伊藤博文殿

甲二九二

秘甲第二八四号

京制及武藏縣設置法律

特別市制廢止法律案ハ第一

期議會以來衆議院議員ノ毎

期議會ニ提出スル所ニシテ

其經歷上ヨリ考察スルトキ

ハ尙第八期議會ニ於テモ之

カ提出ヲ見ルニ至ルヘキコ

ト殆ント疑ヲ容ルヘカラス

就テハ果シテ第八期議會ニ

於テ之ヲ提出スルニ至ラハ

大率前期議會ニ於ケル政府

委員演説ノ旨趣ニ依リテ之
ニ不同意ヲ表スル絶對的ニ之ニ
モ而モ政府ハ絶對的ニ之ニ
不同意ヲ表スル現行特別市
ルモノアリ抑モ現行特別市
制ハ京都大阪ノ二市ニ關シ
テハ之ヲ變更スルノ要ナシ
トスルモ帝國ノ首府タル東
京ノ如キ大都會ニ向ツテハ
最モ適當ナル制度ナリト認
ムルコトヲ得ス此大都會ニ
就テハ更ニ適切恰當ナル制
度ヲ要スルコト多言ヲ俟タ

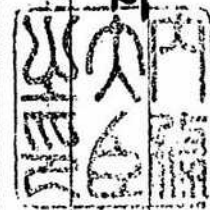
スシテ明ナリ是ヲ以前期
議會ニ於ケル政府委員ノ演
說中ニモ東京市ノ如キ大都
會ニ就テハ一層善良ナル制
度案ヲ調査シ之ヲ議院ニ提
出スヘキコトヲ明言セリ
爾來當省ニ於テ其制度案ニ
就テ考究審査ヲ盡セシニ現
今東京府ノ管轄ニ屬スル郡
市ヲ全然分劃シテ二箇府
政區畫ト為シ各々普通府
縣郡市町村ニ異ナル制度ヲ
施クヲ以テ最モ其宜ニ適ス

ルモノナリト認メタリ即チ
従来市ノ区域ニ属スル部分
ハ之ヲ一ノ団体ト為シテ京
ト称シ従来ノ市ノ如ク府ノ
下ニ從属セシメス府縣ト相
並ニテ直ニ國家ニ隸属セシ
ノ一面ニ於テハ自治体ト為
シ一面ニ於テハ國ノ行政區
畫ト為サントス又從來郡ノ
區域ニ属スル部分ハ之ヲ一
ノ縣ト為サントス然リ而シ
テ從來警視廳ニ属スル東京
府下警察及監獄ノ事務ハ依

然警視廳ノ管理トシ且從來
之カ為メ東京府地方稅ヲ以
テ支辨シタル費用ハ之ヲ京
及縣ノ聯帶支辨ト為スノ制
度ヲ採ラントス蓋シ如此ニ
シテ始メテ此大府ノ抵觸ヲ
行行政ト國家ノ行政ト抵觸
来スノ虞ナカラシムルニ庶
幾カラシムル乎依テ別帝京
武藏縣設置法律按等ヲ來ル
第八期議會ニ提出シ其協賛
ヲ求メントス
右至急閣議ヲ請フ

明治廿七年十二月十一日

内務大臣子爵野村靖



秘

東京都制

第一章 總則

第一款 都及其區域

第二款 都住民及其權利義務

第三款 都條例

第二章 都會

第一款 組織及選舉

第二款 職務權限及處務規程

第三章 都行政

第一款 都參事會及都吏員、組織選任

第二款 都參事會及都吏員、職務權限及

處務規程

第三款 給料及給與

明治廿七年十二月十一日

第四章 都有財産、管理

第一款 都有財産及都税

第二款 都、歳入出豫算及決算

第五章 都行政、監督

第六章 附則

東京都制

第一章 總則

第一款 都及其區域

第一條 從來、東京市ヲ以テ都トシ、府縣ノ

區域ニ屬セシメス其行政ハ此法律ノ定ムル

所ニ從ヒ之ヲ施行スルモノトス

第二條 都ハ國ノ行政區畫トス但法律命令

ニ依リ特ニ都ノ區域ト符合セサル行政區畫

ヲ設クルコトヲ妨ケス

第三條 都ハ財産權ヲ有シ財産義務ヲ負擔シ

裁判所ニ於テ原告被告ト為ルノ權利義務ヲ有

シ官ノ監督ヲ受ケテ左ノ事件ヲ處理スルモ

ノトス

明治廿七年十二月十一日

一 都ノ公共事務

二 従前法律命令若クハ慣例ニ依リ東京市及東京府ノ負擔シタル事件

三 将来法律勅令ヲ以テ都ニ負擔セシムル事件

事件

命令ヲ以テ其ノ範圍ヲ制限シ

前項第一、第二ノ事件ハ命令ヲ以テ制限若クハ廢除スルコトヲ得

第四條 都ノ區域ノ變更ヲ要スルコトアルト

キハ法律ヲ以テ之ヲ定ム

第五條 都ノ境界ニ関スル爭論ハ内務大臣之

ヲ裁決ス

第六條 従来ノ東京市ノ區ハ都ノ區トナス

區ハ法律命令ノ定ムル所ニ從ヒ國ノ行政區

畫トナス

區ハ都參事會ノ意見ニ依リ都ノ行政

區畫ト為スコトヲ得

區ハ其財産及營造物ニ関シ及其他法律命令ノ定ムル所ニ從ヒ公共事務ヲ處理スルモノ

トス

區ノ廢置分合又ハ境界ノ變更及其他區ニ關スル一切ノ制度ハ特ニ此法律ヲ以テ定メタルモノヲ除クノ外勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第二款 都住民及其權利義務

第七條 都内ニ住居ヲ占ムル者ハ總テ都住民

トス

都住民タル者ハ此法律ニ從ヒ都ノ營造物並

明治廿七年十二月十一日

一 都ノ公共事務

二 従前法律命令若クハ慣例ニ依リ東京市

及東京府ノ負擔シタル事件

三 将来法律勅令ヲ以テ都ニ負擔セシムル
事件

第二ノ事件ハ命令ヲ以テ
制限若クハ廢除スルコトヲ得

第四條 都ノ區域ノ變更ヲ要スルコトアルト

キハ法律ヲ以テ之ヲ定ム

第五條 都ノ境界ニ関スル爭論ハ内務大臣之
ヲ裁決ス

第六條 従来ノ東京市ノ區ハ都ノ區トナス

區ハ法律命令ノ定ムル所ニ從ヒ國ノ行政區

畫トナス

區ハ都參事會ノ意見ニ依リ都ノ行政

區畫ト為スコトヲ得

區ハ其財産及營造物ニ関シ及其他法律命令
ノ定ムル所ニ從ヒ公共事務ヲ處理スルモノ

トス

區ノ廢置分合又ハ境界ノ變更及其他區ニ関
スル一切ノ制度ハ特ニ此法律ヲ以テ定メタ
ルモノヲ除クノ外勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第二款 都住民及其權利義務

第七條 都内ニ住居ヲ占ムル者ハ總テ都住民

トス

都住民タル者ハ此法律ニ從ヒ都ノ營造物並

都有財産ヲ共用スルノ權利
及都ノ負
担ヲ分任スルノ義務ヲ有スルモノトス但特
ニ民法上ノ權利及義務ヲ有スル者アルトキ
ハ此限ニ在ラス

第八條 帝國臣民ニシテ公權ヲ有スル獨立ノ
男子二年以來(一)都ノ住民トナリ(二)都ノ負擔
ヲ分任シ及(三)都内ニ於テ直接國稅年額五圓
以上ヲ納ムル者ハ都公民トス其公費ヲ以テ
救助ヲ受ケタル後二年ヲ經サル者ハ此限ニ
在ラス但場合ニ依リ都會ノ議決ヲ以テ監督
官廳ノ許可ヲ受ケ本條ニ定ムル二箇年ノ制
限ヲ特免スルニトヲ得
此法律ニ於テ獨立ト稱スルハ滿二十五歳以

上ニシテ一戸ヲ構ヘ且治産ノ禁ヲ受ケサル
者ヲ云フ

第九條 都公民タル者第八條ニ掲載スル要件
ノ一ヲ失フトキハ其公民タルノ權ヲ失フモ

都公民タル者公權ニ停止中又ハ

租稅滯納處分中ハ其公民タル

ノ權ヲ停止ス

都公民タル者破産若クハ家資分産ノ宣告ヲ
受ケタルトキハ復權ノ宣告ヲ受クルマデ

又公權剥奪若クハ但シニ

都有財産ヲ共用スルノ權利
及都ノ負擔ヲ分任スルノ義務ヲ有スルモノトス但特ニ民法上ノ權利及義務ヲ有スル者アルトキハ此限ニ在ラス

第八條 帝國臣民ニシテ公權ヲ有スル獨立ノ男子二年以來(一)都ノ住民トナリ(二)都ノ負擔ヲ分任シ及(三)都内ニ於テ直接國稅年額五圓以上ヲ納ムル者ハ都公民トス其公費ヲ以テ救助ヲ受ケタル後二年ヲ經サル者ハ此限ニ在ラス但場合ニ依リ都會ノ議決ヲ以テ監督官廳ノ許可ヲ受ケ本條ニ定ムル二箇年ノ制限ヲ特免スルコトヲ得
此法律ニ於テ獨立ト稱スルハ滿二十五歳以

上ニシテ一戸ヲ構ヘ且治産ノ禁ヲ受ケサル者ヲ云フ

第九條 都公民タル者第八條ニ掲載スル要件ノ一ヲ失フトキハ其公民タルノ權ヲ失フモノトス

都公民タル者公權ヲ行使スラレタルトキハ期間公民タルノ權ヲ停止ス

ハ公民タル者租稅滯納處分中ハ其公民タルノ權ヲ停止ス

都公民タル者破産若クハ家資分産ノ宣告ヲ受ケタルトキハ復權ノ宣告ヲ受クルマデ

又公權剥奪若クハ停止ヲ附加ス

ヘキ重罪輕罪ノ為、公判ニ付セラレタルト
キハ其裁判確定ニ至ルマテ亦同シ
陸海軍ノ現役ニ服スル者ハ都ノ公務ニ參與
セサルモノトス

第三款 都條例

第十條 都ノ事務及都住民ノ權利義務ニ關シ
此法律中ニ明文ナク又ハ特例ヲ設クルコト
ヲ許セル事項ハ都ニ於テ特ニ條例ヲ設ケテ
之ヲ規定スルコトヲ得
都ニ於テハ都ノ營造物ニ關シ其他此法律中
ニ明文アル場合ニ限り規則ヲ設クルコトヲ
得
都條例及規則ハ法律命令ニ牴觸スルコトヲ

得ス且之ヲ發行スルトキハ一定ノ公告式ニ
依ルベシ

第二章 都會

第一款 組織及選舉

第十一條 都會議員ハ都ノ選舉人其被選舉權
アル者ヨリ之ヲ選舉ス
議員ノ定員ハ都條例ヲ以テ之ヲ定ム但六十
人ヲ超ユルコトヲ得ス

第十二條 都公民ハ總テ選舉權ヲ有ス但其公
民權ヲ停止セラル、者及陸海軍ノ現役ニ服
スル者ハ此限ニ在ラス
直接都税ヲ納ムル者其額都公民ノ最多ク納
税スル者三名中ノ一人ヨリモ多キトキハ第

八條住居ノ要件ヲ缺クト雖、其他ノ要件ヲ具備スルトキハ選舉權ヲ有ス但公權停止中ノ者租稅滯納處分中ノ者破産若クハ家資分産ノ宣告ヲ受ケ復權ニ至ラサル者公權利奪若クハ停止ヲ附加スヘキ重罪輕罪ノ為公判ニ付セラレ其裁判確定ニ至ラサル者及陸海軍ノ現役ニ服スル者ハ此限ニ在ラス法律ニ從テ設立シタル會社其他法人ニシテ納稅ノ額前項ノ場合ニ當ルトキモ亦同シ

第十三條

選舉人ハ分テ三級トス
選舉人中直接都稅ノ納額最多キ者ヲ合セテ選舉人總實ノ納ムル總額ノ三分一ニ當ルベキ者ヲ一級トス

一級選舉人ノ外直接都稅ノ納額多キ者ヲ合セテ選舉人總實ノ納ムル總額ノ三分一ニ當ルベキ者ヲ二級トシ爾餘ノ選舉人ヲ三級トス

各級ノ間納稅額兩級ニ跨ル者アルトキハ上級ニ入ルベシ又兩級ノ間ニ同額ノ納稅者二名以上アルトキハ其都ニ住居スル年數ノ多キ者ヲ以テ上級ニ入ル若シ住居ノ年數ニ依リ難キトキハ年齡ヲ以テシ年齡ニモ依リ難キトキハ都長官抽籤ヲ以テ之ヲ定ムヘシ選舉人毎級各別ニ議實ノ三分一ヲ選舉ス其被選舉人ハ同級内ノ者ニ限ラス三級ニ通シテ選舉セラル、コトヲ得

第十四條

都ニ於テハ都條例ヲ以テ選舉區ヲ設クルコトヲ得但特ニ二級若クハ三級選舉ノ為メ之ヲ設クルモ妨ケナシ
選舉區ノ數及其區域並各選舉區ヨリ選出スル議員ノ員數ハ都條例ヲ以テ選舉人ノ員數ニ準シ之ヲ定ムヘシ
選舉人ハ其住居ノ地ニ依テ其所屬ノ區ヲ定ム其都内ニ住居ナキ者ハ課税ヲ受ケタル物件ノ所在ニ依テ之ヲ定ム若シ數選舉區ニ亙リ納税スル者ハ課税ノ最多キ物件ノ所在ニ依テ之ヲ定ムヘシ
選舉區ヲ設クルトキハ其選舉區ニ於テ選舉人ノ等級ヲ分ツヘシ

被選舉人ハ其選舉區内ノ者ニ限ラサルモノトス

第十五條

選舉權ヲ有スル都公民ニシテ直接國稅年額十圓以上ヲ納ムル者ハ總ラ被選舉權ヲ有ス

左ニ掲クル者ハ都會議員タルコトヲ得ス

- 一 都ノ官吏
- 二 有給ノ都吏員
- 三 檢事及警察官吏
- 四 神官僧侶及其他諸宗教師
- 五 小學校教員

其他官吏ニシテ當選シ之ニ應セントスルトキハ所屬長官ノ許可ヲ受クヘシ

第十六條 議員ハ名譽職トス其任期ハ六年ト
シ毎三年各級ニ於テ其半数ヲ改選ス若シ各

級ノ議員二分ニ難キトキハ初回ニ於テ多数
ノ一半ヲ解任セシム初回ニ於テ解任スベキ
者ハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム

退任ノ議員ハ再選セラル、コトヲ得

第十七條 議員中關員アルトキハ毎三年定期
改選ノ時ニ至リ同時ニ補闕選舉ヲ行フベシ
若シ定員三分ノ一以上關員アルトキ又ハ都
會都參事會若クハ都長官ニ於テ臨時補闕ヲ
必要ト認ムルトキハ定期前ト雖、其補闕選
舉ヲ行フベシ

補闕議員ハ其前任者ノ殘任期間在職スルモ
トス

定期改選及補闕選舉トモ前任者ノ選舉セラ

子兄弟タルノ縁故アル者ハ同時ニ京會議
タルコトヲ得ス其同時ニ選舉セラレタル
キハ投票ノ數ニ依テ其多キ者一人ヲ當選
シ若レ同數ナレハ年長者ヲ當選トス其時
異ニシテ選舉セラレタル者ハ後者議員ヲ
コトヲ得ス
ハ參事會員トノ間父子兄弟タルノ縁故アル
者ハ之ト同時ニ京會議員タルコトヲ得ス若
シ議員トノ間ニ其縁故アル者京參事會員ノ
任ヲ受クルトキハ其縁故アル議員ハ其職ヲ
退ク可シ

第十六條 議員ハ名譽職トス其任期ハ六年ト
シ每三年各級ニ於テ其半數ヲ改選ス若シ各

級ノ議員二分シ難キトキハ初回ニ於テ多數
ノ一半ヲ解任セシム初回ニ於テ解任スヘキ
者ハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム
退任ノ議員ハ再選セラルハコトヲ得

第十七條 議員中關員アルトキハ每三年定期
改選ノ時ニ至リ同時ニ補闕選舉ヲ行フヘシ
若シ定員三分ノ一以上關員アルトキ又ハ都
會都參事會若クハ都長官ニ於テ臨時補闕ヲ
必要ト認ムルトキハ定期前ト雖、其補闕選
舉ヲ行フヘシ
補闕議員ハ其前任者ノ殘任期間在職スルモ
トス

定期改選及補闕選舉トモ前任者ノ選舉セラ

レタル選舉等級及選舉區ニ從テ之カ選舉ヲ行フ

第十八條 都長官ハ選舉原簿ヲ製レ此原簿ニ

依リテ選舉人名簿ヲ製ス但選舉區ヲ設

クルトキハ每區各別ニ原簿及名簿ヲ製ス

シ

選舉原簿ニハ毎年九月一日現在ノ選舉人資

格ヲ記載ス

選舉人名簿ハ九月十一日ヨリ十日間都廳選

舉區ヲ設クルトキハ區役所ニ於テ關係者ノ

縦覽ニ供スシ若シ關係者ニ於テ異議アル

トキハ縦覽期限内ニ都參事會ニ訴願スルコ

トヲ得

都參事會ハ前項ノ訴願ヲ受ケタルトキハ十

日以内ニ之ヲ裁決ス

前項ノ裁決アリタルトキハ都長官ハ其要領

ヲ告示ス

選舉人名簿ハ十一月一日ヲ以テ確定期限ト

シ次年ノ十月三十一日迄據置ク

確定名簿ニ登録セラレサルモノハ何人タリ

トモ選舉ヲ行フコトヲ得ス但選舉人名簿ニ

登録セララルヘキ裁判言渡書ヲ所持スルモノ

ハ此限ニ在ラス

選舉人名簿ハ調製後之ヲ修正スルコトヲ得

ス但訴願ノ裁決若クハ行政訴訟ノ判決ノ結

果ニ由リ修正スルモノハ此限ニ在ラス

第十九條 選舉ヲ執行スルトキハ都長官ハ選舉ノ場所日時ヲ定メ及選舉スルキ議員ノ數ヲ各級各區ニ分テ選舉前七日ヲ限リテ之ヲ公告スヘシ

各級ニ於テ選舉ヲ行フノ順序ハ先ツ三級ノ選舉ヲ行ヒ次ニ二級ノ選舉ヲ行ヒ次ニ一級ノ選舉ヲ行フヘシ

第二十條 選舉掛ハ名譽職トシ都長官ニ於テ臨時ニ選舉人中ヨリ二名若クハ四名ヲ選任シ都長官若クハ其代理者ハ掛長トナリ選舉會ヲ開閉シ其會場ノ取締ニ任ス但選舉區ヲ設クルトキハ每區各別ニ選舉掛ヲ設クヘシ

第二十一條 選舉開會中ハ選舉人ノ外選舉會

場ニ入ルコトヲ得ス選舉人ハ選舉會場ニ於テ協議又ハ勸誘ヲ爲スコトヲ得ス

第二十二條 選舉ハ投票ヲ以テ之ヲ行フ投票ハ選舉會場ニ於テ被選舉人ノ氏名ヲ記シ封緘ノ上選舉人自ラ掛長ニ差出スヘシ

ス

選舉人投票ヲ差出ストキハ自己ノ氏名及住所ヲ掛長ニ申立テ掛長ハ選舉人名簿ニ照シテ之ヲ受テ封緘ノ儘投票函ニ投入スヘシ但投票函ハ投票ヲ終ル迄之ヲ開クコトヲ得ス

第二十三條 第十二條第二項ニ依リ選舉權ヲ有スル者ハ代人ヲ以テ選舉ヲ行フコトヲ得

第十二條第三項ニ依リ選舉權ヲ有スル會社
其他法人ハ代人ヲ以テ選舉ヲ行フベシ
代人ハ内國人ニシテ公權ヲ有スル獨立ノ男
子ニ限ル但一人ニシテ數人ノ代理ヲ為スコ
トヲ得ス且代人ハ委任狀ヲ選舉掛ニ示ス
シ

第二十四條 單名投票ニシテ左ノ各號ニ該當
スルモノハ之ヲ無効トシ連名投票ニシテ左
ノ第一號第五號第六號ニ該當スルモノモ亦
同シ但連名投票ニシテ第二號乃至第四號ニ
該當スルモノハ其部分ノミヲ無効トス
一 人名ヲ記載セサルモノ
二 記載シタル人名ノ讀ミ難キモノ

三 被選舉人ノ何人タルヲ確認シ難キモノ
四 被選舉權ナキ人名ヲ記載シタルモノ
五 被選舉人氏名ノ外他事ヲ記入シタルモノ
但位階敬稱ノ類ヲ記入スルハ此限ニ在
ラス

六 投票用紙ヲ一定シタル場合ニ於テ其用
紙ヲ用オサルモノ

投票ニ記載ノ人負其選舉スヘキ定數ヲ過ク
ルトキハ末尾ニ記載シタル人名ヲ順次ニ棄
却スベシ

投票ノ受理並効力ニ關スル事項ハ選舉掛之
ヲ議決ス可召同數ナルトキハ掛長之ヲ決ス
第二十五條 議決ノ選舉ハ有効投票ノ多數ヲ

得ル者ヲ以テ當選トス投票ノ數相同キモ、
ハ年長者ヲ取り同年ナルトキハ掛長自ラ抽
籤シテ其當選ヲ定ム
同時ニ補闕員數名ヲ選舉スルトキハ投票數
ノ最多キ者ヲ以テ殘任期ノ最長キ前任者ノ
補闕ト為レ其數相同キトキハ抽籤ヲ以テ其
順序ヲ定ム

第二十六條 選舉掛ハ選舉録ヲ製シテ選舉ノ
顛末ヲ記録シ選舉ヲ終リタル後之ヲ朗讀シ
選舉人名簿其他關係書類ヲ合綴シ選舉掛長
選舉掛ノ一名若クハ數名ト共ニ之ニ署名シ
少クモ六年間之ヲ保存スベシ
投票ハ選舉ヲ終リタル後之ヲ取纏メ封緘ノ

上選舉掛長選舉掛ノ一名若クハ數名ト共ニ
之ニ捺印シ少クモ六年間之ヲ保存スベシ

第二十七條 選舉ヲ終リタル後選舉掛長ハ直
ニ當選者ニ其當選ノ旨ヲ告知ス可シ其當選
ヲ辭セントスル者ハ當選ノ告知ヲ發シタル
日ヨリ五日以内ニ之ヲ都長官ニ申立ツベシ
一人ニシテ數級又ハ數區ノ選舉ニ當リタル
トキハ當選ノ告知ヲ最終ニ發シタル日ヨリ
五日以内ニ於テ何レノ選舉ニ應スベキコト
ヲ申立ツヘシ其期限内ニ之ヲ申立テサル者
ハ總テ其當選ヲ辭スル者ト看做スベシ
本條ニ依リ選舉ヲ辭スル者アルトキハ更ニ
選舉ヲ行フベシ

第二十八條 選舉人選舉ノ効力ニ関シテ異議
アルトキハ選舉ノ日ヨリ十四日以内ニ都參
事會ニ訴願スルコトヲ得

第二十九條 選舉ノ定規ニ違背スルコト重大ナルトキハ其選舉ヲ無効トシ又當選者中其資格ノ要件ヲ有セサル者、アルトキハ其人ノ當選ヲ無効トスヘキモノトス

訴願若クハ訴訟ノハ、判決ニ依リ選舉若クハ當選無効トナリタルトキハ都長官ハ更ニ選舉ヲ行フヘシ

第三十條 議定中其資格ノ要件ヲ有セザル者ハ其職ヲ失フモノトス

見^ミダルトキハ都參事會ニ通知スヘシ
第一項資格要件ノ有無ハ都參事會ニ於テ都
會ノ通知ニ依リ又ハ其職權ヲ以テ之ヲ裁決
ス

第一款 職務權限及處務規程

第三十一條 都會ハ都ヲ代表シ此法律ニ準據
シテ都ニ関スル一切ノ事件並従前東京市會
及東京府會ニ委任セラレタル事件ニシテ將
來命令ヲ以テ制限若クハ廢除セラレサルハ
ハ、モ、又ハ將來法律勅令ニ依テ委任セ
ラル、事件ヲ議決スルモノトス

第三十二條 都會ノ議決ス可キ事件ノ概目左
ノ如シ

- 一 都條例及規則ヲ設ケ並改正スル事
- 二 都費ヲ以テ支辨スルキ事業但國政事務ニ屬スルモノハ此限ニ在ラス
- 三 歳入出豫算ヲ定メ豫算外ノ支出及豫算超過ノ支出ヲ認定スル事
- 四 決算報告ヲ認定スル事
- 五 法律勅令ニ定ムルモノヲ除クノ外使用料、手数料及都税、賦課徴收ノ法ヲ定ムル事
- 六 都有不動産ノ賣買交換讓受讓渡並賃入書入ヲ為ス事
- 七 基本財産ノ處分ニ関スル事
- 八 歳入出豫算ヲ以テ定ムルモノヲ除クノ

外新ニ義務ノ負擔ヲ為シ及權利ノ棄却ヲ為ス事

- 九 都有財産及都ノ營造物ノ管理方法ヲ定ムル事

- 十 都吏員ノ身元保證金ヲ徴シ並其金額ヲ定ムル事

- 十一 都ニ係ル訴訟及和解ニ関スル事

- 第三十三條 都會ハ法律勅令ニ依リ其職權ニ

屬スル都吏員ノ選舉ヲ行フヘシ

- 第三十四條 都會ハ都ノ事務ニ関スル書類及計、算書ヲ檢閲シ都長官ノ報告ヲ請求シテ事務ノ管理議決ヲ施行並收入支出ノ正否ヲ檢査スルノ職權ヲ有ス

都會ハ都ノ公益ニ関スル事件ニ付意見書ヲ
監督官廳ニ差出スコトヲ得

都會ハ官廳ノ諮問アルトキハ意見ヲ陳述ス
ヘシ

第三十五條 都會ハ其權限ニ屬スル事件ヲ都
參事會ニ委任マルコトヲ得

第三十六條 凡議負タル者ハ選舉人ノ指示若
クハ委囑ヲ受クヘカラサルモノトス

第三十七條 都會ハ都會議負中ヨリ議長及副
議長各一名ヲ選舉スヘシ其任期ハ議負ノ任
期ニ從フ

前項ノ選舉ハ新ニ總議員ヲ選舉シタル場合ニハ
其他場合ハ前任者退職後ノ初會ニ於テ之ヲ行フ

第三十八條 議長故障アルトキハ副議長之ニ
代リ議長副議長共ニ故障アルトキハ都會ハ

年長ノ議負ヲ以テ議長トス
第三十九條 都參事會負ハ都會ノ議事ニ參與
スルコトヲ得但議決ニ加ハルコトヲ得ス

都長官ノ委任ヲ受ケタル官吏若クハ吏員ハ
會議ニ列席シテ議事ヲ辨明スルコトヲ得
本條ノ列席者ニ於テ發言ヲ求ムルトキハ何
時ニモ之ヲ許ス
但之ヲ為議員演説ヲ中止スルコトヲ得ス

第四十條 都會ハ會議ノ必要アル毎ニ都長官
會期ヲ定メテ之ヲ招集ス若レ議負四分ノ一
以上ノ請求アルトキ又ハ都參事會ノ請求アル
トキハ必ス之ヲ招集スヘシ其招集並會議

、事件ヲ告知スルハ急施ヲ要スル場合ヲ除
ク、外少クモ會議ノ三日前タルベシ
都會ハ都長官之ヲ開閉ス

第四十一條 都會ハ議員半數以上出席スルニ
非サレハ議決スルコトヲ得ズ但同一ノ議事
ニ付集會再回ニ至ルモ議員猶半數ニ滿タカ
ルトキ此限ニ在ラス

第四十二條 都會ノ議事ハ
半數ヲ以テ決ス可否同數ナルトキハ議長ノ可否
スル所ニ依ル

第四十三條 議長及議員ハ自己及其父母兄弟

若クハ妻子ノ一身上ニ関スル事件ニ付テハ
會議承諾經テ非ハ
都會ノ議事ニ參與スルコトヲ得ズ
議員ノ數此除席ノ為ニ減少スル場合ニ於
テハ會議ヲ開クノ定數ニ滿タサルモ猶會議
ヲ開クコトヲ得

第四十四條 都會ニ於テ都吏員ノ選舉スルニ
ハ其一名毎ニ匿名投票ヲ以テ之ヲ行ヒ
有効投票ノ過半數ヲ得ル者ヲ以テ當選トス
若シ過半數ヲ得ル者ナキトキハ最多數ヲ得
ル者二名ヲ取り之ニ就テ更ニ投票セシム若
シ最多數ヲ得ル者三名以上同數ナルトキハ
議長自ラ抽籤シテ其二名ヲ取り更ニ投票セ
シム此再投票ニ於テモ猶過半數ヲ得ル者ナ

キトギハ抽籤ヲ以テ當選ヲ定ム其他ハ第二
十二條第二十四條適用ス

第四十五條 都會ノ會議ハ公開ス但左ノ場合

ハ此限ニ在ラス

一 都長官ヨリ傍聴禁止ノ要求ヲ受ケタル

トキ

二 議長又ハ議員五名以上ノ發議ニ由リ傍

聴禁止ヲ可決シタルトキ

本條ニ於ケル議長又ハ議員ノ發議ハ討論ヲ
用ナス其可否ヲ決スヘシ

第四十六條 議長ハ議事ノ順序ヲ定メ會議及
選舉ノ事ヲ總理シ議事ヲ開閉シ議場ノ秩序
ヲ保持ス

第四十七條 議員ハ會議中無禮ノ語ヲ用キ若

クハ他人ノ身上ニ涉リ言論スルコトヲ得ズ

第四十八條 會議中此法律若クハ議事規則ニ

違ヒ其他議場ノ秩序ヲ紊ル議員アルトキハ

議長ハ之ヲ警戒シ又ハ制止シ又ハ發言ヲ取

消シシム命ニ從ハサルトキハ議長ハ當日ノ

會議ヲ終ルマテ發言ヲ禁止シ又ハ議場外ニ

退去セシムルニ若シ抗拒ニ涉ル者アルトキハ

警察官ニ命シテ之ヲ退場セシムルコトヲ得

議場騷擾ニシテ整理ニ難キトキハ議長ハ當

日ノ會議ヲ中止シ又ハ之ヲ閉ツルコトヲ得

第四十九條 同一會期中ニ於テ秩序ヲ紊ルコ

ト二回以上ニ及フ議員アルトキハ議長又ハ

議員、發議ニ依リ都會ノ議決ヲ以テ七日以
内其出席ヲ停止スルコトヲ得

第五十條 會議ノ傍聴人公然可否ヲ表シ又ハ
喧騒ニ涉リ其他傍聴規則ニ違ヒ議事ノ妨害
ヲ為ス者アルトキハ議長ハ之ヲ制止シ若シ
命ニ従ハサルトキハ警察官ニ命シテ之ヲ退
場セシムルコトヲ得
傍聴席騷擾ナルトキハ議長ハ總テノ傍聴人
ヲ退出セシムルコトヲ得
議場ノ秩序ヲ紊リ又ハ議事ノ妨害ヲ為ス者
アルトキハ議員、又ハ第三十九條ノ列
席者、ハ議長ノ注意ヲ喚起
スルコトヲ得

第五十一條

都會書記ノ置キ及議長ノ選任ス

都會ハ書記ヲシテ議事録ヲ製シ

テ其議決及選舉ノ顛末並出席議員ノ氏名ヲ
記録セシムヘシ議事録ハ議長及議員二名以
上之ニ署名スヘシ

都會ハ議事録ヲ添ヘ其議決及選舉ノ結果ヲ
都長官ニ報告スヘシ

第五十二條

都會ハ内務大臣ノ認可ヲ經テ議

事規則及傍聴規則ヲ設クヘシ其議事規則中
ニハ之ニ違背セタル議員ニ科スヘキ過怠金
二圓以下ノ罰則ヲ設クルコトヲ得

第三章 都行政

第一款 都參事會及都吏員ノ組織選任

第五十三條

都參事會ヲ置ク其組織左ノ如シ

一 都長官

二 高等官

三 名譽職參事會員 六名

本條第一項第二ノ高等官ノ員數ハ名譽職參事會員ノ員數ニ超ユルコトヲ得ス

都參事會員タル高等官ハ都廳高等官中ヨリ内務大臣之ヲ命ス

第五十四條

名譽職參事會員ハ都會之ヲ選舉ス其選舉ハ第四十四條ニ依テ行フ

第五十五條 名譽職參事會員ハ都公民中年齡滿三十歳以上ニシテ選舉權ヲ有スル者ヨリ

之ヲ選舉ス其任期ハ四年トス任期滿限ノ後ト雖、後任者就職ノ日迄在職スルモノトス名譽職參事會員ハ毎二年其半數ヲ改選ス

初回ノ退任者ハ抽籤ヲ以テ之

ヲ定ム但退任者ハ再選セラル、コトヲ得

若シ闕員アルトキハ其殘任期ヲ補充スル為、直ニ補闕選舉ヲ行フヘシ

第五十六條 名譽職參事會員ハ第十五條第二項ニ掲載スル職ト相兼スルコトヲ得ス

第五十三條

都參事會ヲ置ク其組織左ノ如シ

一 都長官

二 高等官

三 名譽職參事會員 六名

本條第一項第二、高等官ノ員數ハ名譽職參事會員ノ員數ニ超ユルコトヲ得ス

都參事會員タル高等官ハ都廳高等官中ヨリ内務大臣之ヲ命ス

第五十四條 名譽職參事會員ハ都會之ヲ選舉

ス其選舉ハ第四十四條ニ依テ行フ

第五十五條 名譽職參事會員ハ都公民中年齡

滿三十歳以上ニシテ選舉權ヲ有スル者ヨリ

之ヲ選舉ス其任期ハ四年トス任期滿限ノ後

ト雖、後任者就職ノ日迄在職スルモノトス

名譽職參事會員ハ每二年其半數ヲ改選ス

二分レ難キトキハ初回ニ於テ多數ノ一半

退任セシム初回ノ退任者ハ抽籤ヲ以テ之

ヲ定ム但退任者ハ再選セラレ、コトヲ得

若レ闕員アルトキハ其殘任期ヲ補充スル為

、直ニ補闕選舉ヲ行フヘシ

第五十六條 名譽職參事會員ハ第十五條第二

項ニ掲載スル職ト相兼ヌルコトヲ得ス

子兄弟タルノ緣故アル者ハ同時ニ京參事

員タルコトヲ得ス若シ其緣故アル者京長

及高等官參事會員ノ任ヲ受クルトキハ其

第五十七條 都參事會員中名譽職參事會員選舉ノ効力ニ付テ異議アルトキハ選舉ノ日ヨリ十四日以内ニ之ヲ都長官ニ申立ツルコトヲ得其選舉効力ノ有無ハ都參事會之ヲ裁決ス

選舉ノ定規ニ違背スルコト重大ナルトキハ其選舉ヲ無効トシ又當選者中其資格ノ要件ヲ有セサル者アルトキハ其人ノ當選ヲ無効トス

第一項ノ確定裁決若クハ第一項ノ裁決ニ對スル訴訟ノ判決ニ依リ選舉若クハ當選無効トナリタルト

ハ更ニ選舉ヲ行フヘシ

名譽職參事會員中——其資格ノ要件ヲ有セサル者——其職ヲ失フモトス其要件ノ有無ハ都參事會之ヲ裁決ス

第五十八條 都ニ收入役一名ヲ置ク收入役ハ有給吏員トシ其任期ヲ六年トシ都參事會ノ推薦ニ依リ内務大臣之ヲ選任ス

收入役ハ都參事會員及第十五條第二項ニ掲グル職相兼ヌルコトヲ得ス

内務大臣ハ都參事會ノ推薦スル所適任ニア

故アル名譽職參事會員ハ其職ヲ退ク可シ
他ハ第十五條第四項ヲ適用ス

第五十七條 都參事會員中名譽職參事會員選
舉ノ効力ニ付テ異議アルトキハ選舉ノ日ヨ
リ十四日以内ニ之ヲ都長官ニ申立ツルコト
ヲ得其選舉効力ノ有無ハ都參事會之ヲ裁決
ス

選舉ノ定規ニ違背スルコト重大ナルトキハ
其選舉ヲ無効トシ又當選者中其資格ノ要件
ヲ有セサル者アルトキハ其人ノ當選ヲ無効
トスベキモノトス
第一項ノ確定裁決若ハ第一項ノ裁決ニ對
スル訴訟ノ判決ニ依リ選舉若ハ當選無効トナリタルト

キハ更ニ選舉ヲ行フヘシ
名譽職參事會員中——其資格ノ要件ヲ有セ
ルトキハ其職ヲ失フモノトス其要
件ノ有無ハ都參事會之ヲ裁決ス
條ノ議決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出
スルコトヲ得其他ハ第六十六條末項ヲ適

第五十八條 都ニ收入役一名ヲ置ク收入役ハ
有給吏員トシ其任期ヲ六年トシ都參事會ノ
推薦ニ依リ内務大臣之ヲ選任ス
收入役ハ都參事會員及第十五條第二項ニ掲
以レ職相兼スルコトヲ得ス
内務大臣ハ都參事會ノ推薦スル所適任ニテ

ラスト認めルキハ再推薦ヲ為サシメ再推
薦ニ於テモ猶適任ニアラスト認めルキハ
一年以内ノ期限ヲ定メテ臨時代理者ヲ選任
シ又ハ都費ヲ以テ官吏ヲ派遣シ收入役ノ職
務ヲ管掌セシムベシ
收入役ハ三箇月前ニ申立ツルトキハ隨時退
職ヲ求ムルコトヲ得此場合ニ於テハ退隠料
ヲ受クルノ權ヲ失フモノトス

第五十九條 都ニ書記其他必要ノ附屬員並使

丁ヲ置キ相當ノ給料ヲ給ス其人貢ハ都規則
ヲ以テ之ヲ定メ都長官之ヲ任用ス

第六十條 每區區長及收入役各一名ヲ置ク

區長及收入役ニ就テハ第五十八條第一項乃
至第四項ヲ適用シ收入役ニ就テハ仍其第五
項ヲ適用ス

前條ニ依リ區ニ書記附屬員並使丁ヲ置ク

第六十一條 都ハ都規則ノ規程ニ依リ臨時又
ハ常設ノ委員ヲ置クコトヲ得其委員ハ名譽

職トス

委員ハ都參事會員又ハ都會議會員ヲ以テ之ニ
充テ又ハ都參事會員及都會議會員ヲ以テ之ヲ
組織シ又ハ都參事會員都會議會員ト都公民中
選舉權ヲ有スル者トヲ以テ之ヲ組織シ都參
事會員一名ヲ以テ委員長トス
委員中都會議會員ヨリ出ツル者ハ都會之ヲ選

舉ニ選舉權ヲ有スル公民ヨリ出ツル者ハ都
參事會之ヲ選舉シ其他ノ委員ハ都長官之ヲ
選任ス

委員中ハ其資格ノ要件ヲ有セサル者ハ
ハ其職ヲ失フモノトス其都公民中選舉
權ヲ有スル者ヨリ選舉セラレタル委員資格
ノ要件有無ハ都參事會之ヲ裁決ス
委員ノ組織ニ関シテハ都條例ヲ以テ別段ノ
規程ヲ設クルコトヲ得

第六十二條 委員ニハ職務取扱ノ為ニ要ス
ル實費弁償ノ外都規則ノ規程ニ依リ勤務ニ
相當スル報酬ヲ給スルコトヲ得

第六十三條 都收入役及區長區收入役ニシテ

第九條第二項及第三項ノ公民權停止ノ原
因タルハキ事項ハ又ハ同條第四項ニ

該當スル者ハ其職ヲ失フモノトス
都收入役及區長區收入役ニシテ公權利奪若
クハ停止ヲ附加スヘキ重罪輕罪ノ豫審ニ付
セラレタルトキハ其職ヲ停止スルコトヲ得
都吏員及使丁ハ別段ノ規程又ハ規約アルモ
ノヲ除ク外隨時解職スルコトヲ得

第二款 都參事會及都吏員ノ職務權限
及處務規程

第六十四條 都參事會ハ都ノ行政事

務ヲ擔任ス

都參事會ノ擔任スル事務ノ概目左ノ如シ

一 都會、議事ヲ準備シ及其議決ヲ執行スル事

二 都、營造物及都有財産ヲ管理スル事若シ特ニ之ヲ管理者アルトキハ其事務ヲ監督スル事

三 都、歲入ヲ管理シ歲入出豫算表其他都會、議決ニ依テ定マリタル收入支出ヲ命令シ會計及出納ヲ監視スル事

四 都吏員及使丁ヲ監督シ都參事會員ヲ除ク、外其他ニ對シ懲戒處分ヲ行フ事其懲戒處分ハ譴責及十圓以下ノ過怠金トス

五 都、諸證書及公文書類ヲ保管スル事

六 外部ニ對シテ都ヲ代表シ都ノ名義ヲ以テ其訴訟並和解ニ関シ又ハ他廳若クハ人民ト商議スル事

七 法律勅令ニ依リ又ハ都會ノ議決ニ從テ使用料、手数料及都稅ヲ賦課徵收スル事

八 其他法律命令又ハ上司ノ指令ニ依テ都參事會ニ委任シタル事務ヲ處理スル事

第六十五條 都參事會ハ都ノ公益ニ関スル事件ニ付意見書ヲ監督官廳ニ差出スコトヲ得

第六十六條 都住民及公民タル權利ノ有無選舉權及被選舉權ノ有無選舉人名簿ノ正否並其等級ノ當否代理ヲ以テ執行スル選舉權及

都會會議員選舉ノ効力ニ関スル訴願ハ都參事會之ヲ裁決ス

前項都參事會ノ裁決又ハ第三十條都參事會ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

本條ノ事件ニ付テハ都長官ヨリモ亦訴訟ヲ提起スルコトヲ得

本條ノ訴願及訴訟ノ為ニ處分若クハ裁決ノ執行ヲ停止スルコトヲ得ス但裁決確定シ若クハ判決アルニ非サレハ更ニ選舉ヲ行フコトヲ得

第六十七條 都會ノ議決公益ヲ害スト認ムルトキハ都參事會ハ自己ノ意見ニ由リ若クハ

内務大臣ノ指揮ニ由リ理由ヲ示シテ議決ノ執行ヲ要スルモノハ之ヲ停止シ之ヲ再議セシメ猶其議決ヲ改メサルトキハ内務大臣ニ具狀シテ指揮ヲ請フコトヲ得
都會ノ議決其權限ヲ超エ若クハ法律命令ニ背クト認ムルトキハ都參事會ハ其議決ヲ取消スベシ此場合ニ於テ都參事會ノ處分ニ不服アルトキハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第六十八條 都會ニ於テ行政上若クハ公益上必要ノ費用ヲ議決セス若クハ議了セス若クハ否決シ若クハ議決スト雖ハ必要ノ給需ヲ缺クトキハ都參事會ハ之ヲ再議セシメタル

上若クハ直ニ内務大臣ニ具狀シテ指揮ヲ請フコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ内務大臣ハ原案金額以内ニ於テ適當ノ金額ヲ定メ指揮スルコトヲ得

第六十九條

都會招集ニ應セス若クハ成立セ

サルトキ又ハ其議決スベキ事件ヲ議決セス若クハ議了セサルトキハ都參事會ハ内務大臣ノ指揮ヲ請ヒ其議決スベキ事件ヲ處分スルコトヲ得

前項ノ處分ハ次回ノ會議ニ於テ之ヲ報告ス

第七十條

第四十一條但書若クハ第四十三條

第二項ノ場合ニ於テ全ク會議ヲ開クコト能

ハサルトキハ第六十八條若クハ第六十九條ノ例ニ依ル

第七十一條

都參事會ハ都長官又ハ其代理者

及其他ノ會員定員三分ノ一以上出席スル非サレハ議決スルコトヲ得

都參事會ノ議事ハ

過半数ヲ以テ決ス可否

同數ナルトキハ都長官ノ可否スル所ニ依ル

議決ノ事件ハ之ヲ議事録ニ登記スベシ

第七十二條

都長官ト都參事會トノ關係ニ就

テハ第六十七條乃至第六十九條ノ規程ヲ適用ス

第七十三條 第四十三條ノ規程ハ都參事會ニ

モ亦之ヲ適用ス但同條第二項ノ規程ニ依ル
場合ニ於テ全ク會議ヲ開クコト能ハサルト
キハ第六十八條若クハ第六十九條ノ都參事
會トアルヲ都長官ト看做シ都會トアルヲ都
參事會ト看做シ其規程ヲ適用ス

第七十四條 都長官ハ都政一切ノ事務ヲ指揮
監督ス

都長官ハ都參事會ヲ招集シ之カ議長トナル
都長官故障アルトキハ其代理者ヲ以テ之ニ
充ツ

都長官ハ都參事會ノ議事ヲ準備シ其議決ヲ
執行シ都參事會ノ名ヲ以テ文書ヲ往復ヲ為

シ及之ニ署名ス

第七十五條 急施ヲ要スル場合ニ於テ都參事
會ヲ招集スルノ暇ナキトキハ都長官ハ都參
事會ノ事務ヲ專決處分シ次回ノ會議ニ於テ
其處分ヲ報告スヘシ

第七十六條 都參事會員ハ都長官ノ職務ヲ補
助ス

都長官ハ都會ノ同意ヲ得テ都參事會員ヲレ
テ都行政事務ノ一部ヲ分掌セシムルコトヲ
得此場合ニ於テハ名譽職會員ハ職務取扱ノ
為ニ要スル實費辨償ノ外勤務ニ相當ナル
報酬ヲ受クルコトヲ得
都參事會員ノ特別ナル職務ハ都規則ヲ以テ

之ヲ規定スヘシ

第七十七條 都收入役ハ都ノ收入ヲ受領シ其費用ノ支拂ヲ為シ其他會計事務ヲ掌ル

第七十八條 都書記ハ都長官ノ指揮ニ從ヒ庶務ヲ分掌ス

第七十九條 區長ハ都長官ノ監督ヲ受ケ區ノ公共事務ヲ管掌ス

區長ハ都參事會ノ機關トナリ其指揮命令ヲ受ケテ區内ニ關スル都行政事務ヲ補助執行ス

區長ハ都長官ノ監督ヲ受ケ法律命令ニ依リ若クハ都長官ノ委任ニ依リ區内ニ關スル國行政事務ヲ執行シ又ハ都長官ノ指揮命令

ヲ受ケ區内ニ關スル國行政事務ヲ補助執行ス

本條ニ掲載スル事務ヲ執行スルカ為ニ要スル費用ハ都ノ負擔トス

第八十條 區收入役ハ區ノ收入ヲ受領シ其費用ノ支拂ヲ為シ其他會計事務ヲ掌ル
區收入役ハ都收入役ノ指揮命令ヲ受ケ區内ニ關スル都收入役ノ事務ヲ補助執行ス

第八十一條 區書記ハ區長ノ指揮ニ從ヒ庶務ヲ分掌ス

第八十二條 委員ハ都參事會ノ監督ヲ受ケ都規則ノ規程ニ依リ都行政事務ノ一部ヲ分掌

シ又ハ營造物ヲ管理シ若クハ監督シ又ハ一時ノ委託ニ依リ事務ヲ處辨ス
都長官ハ隨時委員會ニ列席シテ議決ニ加ハ
リ其議長タルノ權ヲ有ス委員ノ職務權限ニ
關シテハ都條例ヲ以テ別段ノ規程ヲ設クル
コトヲ得

第三款 給料及給與

第八十三條 名譽職員ハ此法律中別ニ規程アルモノヲ除クノ外職務取扱ノ為ニ要スル實費ノ辨償ヲ受クルコトヲ得
實費辨償額及報酬額ハ都規則ヲ以テ之ヲ規定ス

第八十四條 有給吏員ノ給料額旅費額及其支

給方法ハ都規則ヲ以テ之ヲ規定ス

第八十五條 都條例ノ規程ヲ以テ有給吏員ノ退隱料ヲ設クルコトヲ得

第八十六條 有給吏員ノ給料旅費退隱料其他

第八十三條ニ定ムル給與ニ關スル訴願ハ都參事會之ヲ裁決ス其都參事會ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第八十七條 給料旅費退隱料報酬辨償等ハ總テ都ノ負擔トス

第四章 都有財産ノ管理

第一款 都有財産及都税

第八十八條 都ハ其不動産積立金穀等ヲ以テ基本財産ト為シ之ヲ維持スルノ義務アリ

臨時ニ收入シタル金穀ハ基本財産ニ加入ス
レ但寄附金等寄附者其使用ノ目的ヲ定ム
ルモノハ此限ニ在ラス

都ハ都條例ノ規程ニ依リ或ル事業ノ為ニ特
別ノ基本財産ヲ設クルコトヲ得

第八十九條 都有財産ハ全都ノ為ニ之ヲ管
理シ及共用スルモノトス但特ニ民法上ノ權
利ヲ有スル者アルトキハ此限ニ在ラス

第九十條 舊來ノ慣行ニ依リ都住民中特ニ其
都有ノ土地物件ヲ使用スル權利ヲ有スル者
アルトキハ都會ノ議決ヲ經ルニ非サレハ其
舊慣ヲ改ムルコトヲ得ス

第九十一條 都住民中特ニ前條都有ノ土地物件ヲ

使用スル權利ヲ得ントスル者アルトキハ都
條例ノ規程ニ依リ使用料若クハ一時ノ加入
金ヲ徴收シ又ハ使用料加入金ヲ共ニ徴收シ
テ之ヲ許可スルコトヲ得但特ニ民法上使用
ノ權利ヲ有スル者ハ此限ニ在ラス

第九十二條 使用權ヲ有スル者(第九十條第九
十一條)ハ使用ノ多寡ニ準シテ其土地物件ニ
係ル必要ナル費用ヲ負擔スヘシ

第九十三條 都會ハ都ノ為ニ必要ナル場合
ニ於テハ使用權(第九十條第九十一條)ヲ取上
リ又ハ制限スルコトヲ得但特ニ民法上使用
ノ權利ヲ有スル者ハ此限ニ在ラス

第九十四條 都有財産ノ賣却貸與又ハ建築工

事及物品調達ノ請負ハ公ケノ入札ニ付スヘシ但臨時急施ヲ要スルトキ及入札ノ價格其費用ニ比シテ得失相償ハサルトキ又ハ都會ノ兼諾ヲ得ルトキハ此限ニ在ラス

第九十五條 都ハ其必要ナル支出及従前法律命令若クハ慣例ニ依リテ東京市及東京府ニ賦課セラレタル支出ニシテ将来命令ヲ以テ制限若クハ廢除セラレサルハ、モノ又ハ将来法律勅令ニ依テ賦課セラル、支出ヲ負擔スルノ義務アリ
都ハ其財産ヨリ生スル收入及使用料、手数料、料料、過怠金其他法律勅令ニ依リ都ニ屬スル收入ヲ以テ前項ノ支出ニ充テ猶不足アルト

キハ都税
ヲ賦課徴收スルコトヲ

得
都ハ都條例ノ規定ニ依リ特別會計ヲ設クルコトヲ得

第九十六條 都ハ其所有物及營造物ノ使用ニ付又ハ特ニ數箇人ノ為ニスル事業ニ付使用料又ハ手数料ヲ徴收スルコトヲ得

第九十七條 都税トシテ賦課スルコトヲ得
キ目左ノ如シ

- 一 國税ノ附加税
 - 二 直接又ハ間接ノ特別税
- 附加税ハ直接ノ國税ニ附加シ均一ノ税率ヲ以テ都ノ全部ヨリ徴收スルヲ常例トス特別

税ハ附加税、外別ニ都限り税目ヲ起シテ課
税スルコトヲ要スルトキ賦課徴收スルモノ
トス

第九十八條 此法律ニ規定セル條項ヲ除ク、
外使用料、手数料、特別税ニ関スル細則ハ都條
例ヲ以テ之ヲ規定スヘシ其條例ニハ科料一
圓九十五錢以下ノ罰則ヲ設クルコトヲ得
科料ニ處シ及之ヲ徴收スルハ都參事會之ヲ
掌ル其處分ニ不服アル者ハ令狀交付後十四
日以内ニ司法裁判所ニ出訴スルコトヲ得
第九十九條 三箇月以上都内ニ滞在スル者ハ
其都税ヲ納ムヘキモノトス但其課税ハ滞在ノ
初ニ遡リ徴收スヘシ

第一百條 都内ニ住居ヲ構ヘス又ハ三箇月以上
滞在スルコトナシト雖、都内ニ土地家屋ヲ
所有シ又ハ營業ヲ為ス者店舖ヲ定メサル行
商ヲ除クハ其土地家屋營業若クハ其所得ニ
對シテ賦課スル都税ヲ納ムヘキモノトス其法
人タルトキモ亦同シ但郵便電信及官設鐵道
ノ業ハ此限ニ在ラス

第一百一條 所得税ニ附加税ヲ賦課シ及都ニ於
テ特別ニ所得税ヲ賦課セントスルトキハ納
税者ノ都外ニ於ケル所有ノ土地家屋又ハ營
業店舖ヲ定メサル行商ヲ除クヨリ收入スル
所得ハ之ヲ控除スヘキモノトス
第一百二條 都及市町村ニ住居ヲ構ヘ又ハ滞在

スル者ニ前條ノ新稅ヲ賦課スルトキハ其所
得ヲ都及市町村ニ平分シ其一部分ニノ課
稅スヘシ但土地家屋又ハ營業ヨリ收入スル
所得ハ此限ニ在ラス

第百三條 所得稅法第三條ニ掲クル所得ハ都
稅ヲ免除ス

第百四條 左ニ掲クル物件ハ都稅ヲ免除ス

- 一 政府都府縣郡市町村及公共組合ニ屬シ
直接ノ公用ニ供スル土地、營造物及家屋
- 二 社寺及官立公立ノ學校病院其他學藝、美
術及慈善ノ用ニ供スル土地、營造物及家
屋
- 三 官有ノ山林又ハ荒蕪地

新開地及開墾地ハ都條例ニ依リ年月ヲ限り
免稅スルコトヲ得

第百五條 前二條ノ外都稅ヲ免除スヘキモノ
ハ別段ノ法律勅令ニ定ムル所ニ從フ皇族ニ
係ル都稅ノ賦課ハ追テ法律勅令ヲ以テ定ム
ル迄現今ノ例ニ依ル

第百六條 數個人ニ於テ專ラ使用スル所ノ營
造物アルトキハ其修築及保存ノ費用ハ之ヲ
其關係者ニ賦課スルコトヲ得

都内ノ一部ニ於テ專ラ使用スル營造物アル
トキハ其都内ニ住居シ若クハ滞在シ又ハ土
地家屋ヲ所有シ營業(店鋪ヲ定メサル行商ヲ
除ク)ヲ為ス者ヲシテ其修築及保存ノ費用ヲ

負債セシムルコトヲ得但、其一部、所有財産アルトキハ其收入ヲ以テ先ツ其費用ニ充ツヘシ

第百七條

都税ハ納税義務ノ起リタル翌月、初ヨリ免税理由、生シタル月、終迄月割ヲ以テ之ヲ徴收スヘシ但日割ヲ以テ徴收スルモノハ此限ニ在ラス

會計年度中ニ於テ納税義務消滅シ又ハ變更スルトキハ納税者ヨリ之ヲ都長官ニ届出ツベシ其届出ヲ為シタル月、終迄ハ従前ノ税ヲ徴收スルコトヲ得

物件ヲ目的トシ納期ヲ定メテ一定ノ額ヲ賦課スル都税ハ其納期ニ於テ納税義務ヲ負フ者其額ヲ納ムヘシ

都税ノ前納ニ係ルモノハ其義務ノ消滅シ又ハ他人ニ移轉シタル場合ト雖之ヲ還付セス但、其義務ノ移轉ヲ受ケタル者ハ其前納期限ノ終迄納税セサルモトス

負債セシムコトヲ得但其一部、所有財産アルトキハ其收入ヲ以テ先ツ其費用ニ充ツヘシ

第百七條 都税ハ納税義務ノ起リタル翌月、

初ヨリ免税理由、生レタル月ノ終迄月割ヲ以テ之ヲ徴收スヘシ但日割ヲ以テ徴收スルモノハ此際ニ在ラス

會計年度中ニ於テ納税義務消滅シ又ハ變更

スルトキハ納税者ヨリ之ヲ都長官ニ届出ツ

ヘシ其届出ヲ為シタル月ノ終迄ハ従前ノ税

ヲ徴收スルコトヲ得

物件ヲ目的トシ納期ヲ定メテ一定ノ額ヲ賦

課スル都税ハ其納期ニ於テ納税義務ヲ負フ

者其額ヲ納ムヘシ

都税ノ前納ニ係ルモノハ其義務ノ消滅シ又

ハ他人ニ移轉シタル場合ト雖之ヲ還付セス

但其義務ノ移轉ヲ受ケタル者ハ其前納期

限ノ終迄納税セサルモノトス

第百八條 京公共ノ事業ヲ起シ又ハ公共ノ安

寧ヲ維持スルカ為メニ夫役及現品ヲ以テ納

税者ニ賦課スルコトヲ得但學藝美術及手工

ニ関スル勞役ヲ課スルコトヲ得ス

夫役及現品ハ急迫ノ場合ヲ除クノ外直接京

税ヲ準率ト為シ且之ヲ金額ニ算出レテ賦課

ス可シ

夫役ヲ課セテレタル者ハ其便宜ニ從ヒ本人

自ラ之ニ當リ又ハ適當ノ代人ヲ出スコトヲ

第百八條

都ニ於テ徵收スル使用料、加入金、手数料、都税

定期内ニ納メサルトキハ都参事會ハ之ヲ督

從シ猶之ヲ完納セサルトキハ國稅滯納處分

法ニ依リ之ヲ徵收スヘシ其督促ヲ為スニハ

都條例ノ規程ニ依リ手数料ヲ徵收スルコト

ヲ得

納稅者中無資力ナル者アルトキハ都参事會

ノ意見ヲ以テ會計年度内ニ限リ納稅延期ヲ

許ストヲ得其年度ヲ越エル場合ニ於テハ

都會ノ議決ニ依ル

本條ニ記載スル徵收金ノ追徵時効及先

取特權ニ付テハ國稅ニ關スル規則ヲ適用ス

第百九條

地租ノ附加稅ハ地租ノ納稅者ニ賦

課シ其他土地ニ對シテ賦課スル都税ハ其所

第百十條

有者又ハ使用者ニ賦課スルコトヲ得

都税ノ賦課ニ付課額課目ニ錯誤

アルコトヲ發見シタル者ハ賦課令狀ノ交付

後三箇月以内ニ都参事會ニ許願スルコトヲ

第百十一條

都税ノ賦課(第百十條)並都ノ營

造物及都有財産ヲ使用スル權利ニ關スル許

願ハ都参事會之ヲ裁決ス但民法上ノ權利ニ

得又急迫ノ場合ヲ除ク、外金圓ヲ以テ之ニ
代フルコトヲ得

第百八條

都ニ於テ徵收スル使用料加入金手

數料都税

其他都ノ收入ヲ

定期内ニ納メサルトキハ都參事會ハ之ヲ督
促シ猶之ヲ完納セサルトキハ國稅滯納處分
法ニ依リ之ヲ徵收スヘシ其督促ヲ為スニハ
都條例ノ規程ニ依リ手数料ヲ徵收スルコト
ヲ得

納稅者中無資力ナル者アルトキハ都參事會
ノ意見ヲ以テ會計年度内ニ限り納稅延期ヲ
許スコトヲ得其年度ヲ越ユル場合ニ於テハ
都會ノ議決ニ依ル

本條ニ記載スル徵收金ノ追徵時効及先

取特權ニ付テハ國稅ニ関スル規則ヲ適用ス

第百九條

地租ノ附加稅ハ地租ノ納稅者ニ賦

課シ其他土地ニ對シテ賦課スル都稅ハ其所

有者又ハ使用者ニ賦課スルコトヲ得

第百十條

都稅ノ賦課ニ付課額課目ニ錯誤

アルコトヲ發見シタル者ハ賦課令狀ノ交付

後三箇月以内ニ都參事會ニ訴願スルコトヲ

得此期限ヲ經過スルトキハ減稅免稅及償還

ヲ請求スルノ權利ヲ失フモノトス

第百十一條

都稅ノ賦課(第百十條)並都ノ營

造物及都有財産ヲ使用スル權利ニ関スル訴

願ハ都參事會之ヲ裁決ス但民法上ノ權利ニ

係ルモノハ此限ニ在ラス

前項ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ
出訴スルコトヲ得

本條ノ許願及訴訟ノ為ニ其處分ノ執行ヲ
停止スルコトヲ得ス

第百十二條 都ニ於テ公債ヲ募集スルハ公債
元額ヲ償還スル為ニ又ハ天災時變等已ムヲ
得サル支出若クハ都ノ永久ノ利益トナルベ
キ支出ヲ要スルニ方リ通常ノ歳入ヲ増加ス
ルトキハ其都住民ノ負擔ニ堪ヘサルノ場合
ニ限ルモノトス

都會ニ於テ公債募集ノ事ヲ議決スルトキハ
併セテ其募集ノ方法利息ノ定率及償還ノ方

法ヲ定ムヘシ

豫算内ノ支出ヲ為スカ為ニ必要ナル一時ノ
借入金ハ本條ノ例ニ依ラス其年度内ノ收入
ヲ以テ償還スヘキモノトス但此場合ニ於テ
ハ都會ノ議決ヲ經ヘシ

第二款 都ノ歳入出豫算及決算

第百十三條 都參事會ハ每會計年度收入支出
ノ豫知シ得ヘキ金額ヲ見積リ年度前少クト
モ二箇月ヲ限リ歳入出豫算表ヲ調製スヘシ
但都ノ會計年度ハ政府ノ會計年度ニ同シ
都ノ費用ヲ以テ支辨スヘキ事業ニシテ數年
ヲ期シテ施行スヘキモノ又ハ數年ヲ期シテ
其費用ヲ支出スヘキモノハ都會ノ議決ヲ以

テ其年期間各年度ノ支出額ヲ定メ繼續費ト
為スコトヲ得

内務大臣ハ省令ヲ以テ豫算表調製ノ式ヲ定
ムルコトヲ得

第百十四條 豫算表ハ會計年度前都會ノ議決
ヲ取り之ヲ内務大臣ニ報告シ並一定ノ公告
式ニ依リ其要領ヲ告示スヘシ
豫算表ヲ都會ニ提出スルトキハ都參事會ハ
併セテ其入都ノ事務報告書及財産明細表ヲ提
出スヘシ

第百十五條 豫算外ノ費用又ハ豫算ノ不足ア
ルトキハ都參事會ハ追加豫算トシテ都會ノ
議決ヲ求ムルコトヲ得

豫算中臨時ノ場合ニ支出スルカ為ニ豫備
費ヲ置キ都參事會ハ豫メ都會ノ認定ヲ受ケ
スシテ豫算外ノ費用又ハ豫算超過ノ費用ニ
充ツルコトヲ得但都會ノ否決シテ充ツルコトヲ得ス

第百十六條 都會ニ於テ豫算表ヲ議決シタル
トキハ都長官ヨリ其謄本ハ、ハ、ヲ都收入
役ニ交付スヘシ其豫算表中監督官廳ノ許可
ヲ受クヘキ事項アルトキハ先ツ其許可ヲ受
クヘシ
都收入役ハ都參事會ノ命令アルニ非サレハ
支拂ヲ為スコトヲ得ス又都收入役ハ都參事
會ノ命令ヲ受ノルニ其支出豫算表中ニ豫定
ナキカ又ハ其命令第百十五條ノ規程ニ據ラ

サルトキハ支拂ヲ為スコトヲ得ス
前項ノ規程ニ背キタル支拂ハ總テ都收入役
ノ責任ニ歸ス

第百十七條 都ノ出納ハ毎月例日ヲ定メテ檢
査シ及毎年必クモ一回臨時檢査ヲ行フヘシ
檢査ハ都長官又ハ其代理者之ヲ行ヒ臨時檢
査ハ都會ノ互選シタル議員一名以上ノ立會
ヲ要ス

第百十八條 決算ハ會計年度ノ終ヨリ三箇月
以内ニ之ヲ結了シ證書類ヲ併セテ都收入役
ヨリ之ヲ都參事會ニ提出シ都參事會ハ之ヲ
審査シ意見ヲ附シテ之ヲ都會ノ認定ニ付ス
ベシ其都會ノ認定ヲ經タルトキハ都長官ヨ

リ之ヲ内務大臣ニ報告ス
決算報告ヲ為ストキハ都參事會員タル都會
議員ハ都會ノ議決ニ加ハルコトヲ得ス

第五章 都行政ノ監督

第百十九條 都行政ハ内務大臣之ヲ監督ス

第百二十條

此法律中ニ規定スル場合ニ於テ行政裁判所
ニ出訴セントスル者ハ裁決書ヲ交付シ又ハ
之ヲ告知シタル日ヨリ二十一日以内ニ訴訟

サルトキハ支拂ヲ為スコトヲ得ス

前項ノ規程ニ背キタル支拂ハ總テ都收入後ノ責任ニ歸ス

第百十七條 都、出納ハ毎月例日ヲ定メテ検査シ及毎年必クモ一回臨時検査ヲ行フヘシ検査ハ都長官又ハ其代理者之ヲ行ヒ臨時検査ハ都會ノ互選シタル議員一名以上ノ立會ヲ要ス

第百十八條 決算ハ會計年度ノ終ヨリ三箇月以内ニ之ヲ結了シ證書類ヲ併セテ都收入役ヨリ之ヲ都參事會ニ提出シ都參事會ハ之ヲ審査シ意見ヲ附シテ之ヲ都會ノ認定ニ付スベシ其都會ノ認定ヲ經タルトキハ都長官ヨ

リ之ヲ内務大臣ニ報告ス

決算報告ヲ為スコトキハ都參事會員タル都會議員ハ都會ノ議決ニ加ハルコトヲ得ス

第五章 都行政ノ監督

都行政ハ内務大臣之ヲ監督ス

第百二十條 法律ニ規定スル場合ニ於テ

務大臣ニ訴願セントスル者ハ處分書若ク

裁決書ヲ交付シ又ハ之ヲ告知シタル日ヨ

十四日以内ニ訴願ヲ提出ス可シ但此法律

別ニ期限ヲ定ムルモノハ此限ニ在ラス

此法律中ニ規定スル場合ニ於テ行政裁判所

ニ出訴セントスル者ハ裁決書ヲ交付シ又ハ

之ヲ告知シタル日ヨリ二十一日以内ニ訴訟

第

百二十一條

訴願及訴訟ヲ提出スルトキハ、處分又ハ裁決、執行ヲ停止ス。但此法律中別ニ規程アリ又ハ當該官廳ノ意見ニ依リ其停止ノ為ニ都、公益ニ害アリト為ストキハ此限ニ在ラス。

第百二十二條 監督官廳ハ都行政ノ法律命令ニ背戾セサルヤ其事務錯乱溢滞セサルヤ否ヲ監視ス。監督官廳ハ之ヲ為ニ行政事務ニ関シテ報告ヲ為シ、豫算及決算等ノ書類帳簿ヲ徴シ、並實地ニ就テ事務ノ現況ヲ視察シ、出納ヲ檢閲スルノ權ヲ有ス。

監督官廳ハ都行政ヲ監督スル為ニ必要ナル命令ヲ發シ、及處分ヲ為スノ權ヲ有ス。

第百二十三條

都會ノ解散ハ勅令ヲ以テス。此場合ニ於テハ三箇月以内ニ議員ヲ改選ス。

第百二十四條

都條例ノ設定ニ關スル都會ノ議決ハ内務大臣ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス。此場合ニ於テハ勅裁ヲ經テ之ヲ許可ス。

第百二十五條

左ノ事件ニ關スル都會ノ議決ハ内務大臣及大藏大臣ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス。

一 新ニ都ノ負債ヲ起シ又ハ負債額ヲ増加

シ並募集ノ方法利息ノ定率及償還ノ方法ヲ變更スル事

- 二 都特別税若クハ使用料若クハ手数料ヲ新設シ若クハ變更スル事
 - 三 地租七分ノ五其他直接國税百分ノ五十ヲ超過スル附加税ヲ賦課スル事
 - 四 間接國税ニ附加税ヲ賦課スル事
 - 五 法律勅令ノ規程ニ依リ官廳ヨリ補助スル歩合金ニ對シ支出金額ヲ定ムル事
- 第百二十六條 左ノ事件ニ關スル都會ノ議決ハ内務大臣ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス
- 一 都規則ヲ設定スル事
 - 二 基本財産ノ處分ニ關スル事
 - 三 都有不動産ノ賣却交換讓與並賃入書入ヲ為ス事

- 四 各個人特ニ使用スル都有土地物件使用法ノ變更ヲ為ス事(第九十三條)
- 五 各種ノ保證ヲ與フル事
- 六 法律勅令ニ依テ負擔スル義務ニ非スレテ向五箇年以上ニ亘リ新ニ都住民ニ負擔ヲ課スル事
- 七 繼續費ヲ定メ及其年期限内ニ議決ヲ變更スル事
- 八 均一ノ税率ニ據ラスシテ國税ニ附加税ヲ賦課スル事
- 九 第百六條ニ從ヒ數個人又ハ都内ノ一部ニ費用ヲ賦課スル事

十

學藝美術^{ニ関シ}又ハ歴史上貴重ナル
物品ノ賣却讓與實入書入^ハ若クハ
大ナル變更ヲ為ス事

第二百二十七條

内務大臣ハ名譽職都參事會員、
委員、區長其他都吏員ニ對シ懲戒處分ヲ行フ
コトヲ得其懲戒處分ハ譴責及追怠金トス

都吏員ノ懲戒法ヲ設クル迄ハ左ノ區別ニ從

テ官吏懲戒例ヲ適用ス^{下シ}

一 都參事會ノ懲戒處分ニ不服アル者ハ内
務大臣ニ訴願スルコトヲ得

二 本條第一項ニ掲載スル都吏員職務ニ違

フコト再三ニ及ビ又ハ其情狀重キ者又
ハ行狀ヲ乱リ廉恥ヲ失フ者財産ヲ浪費
シ其分ヲ守ラサル者又ハ職務舉ラサル
者ハ懲戒裁判ヲ以テ其職ヲ解グコトヲ
得其隨時解職スルコトヲ得^キ者ハ懲
戒裁判ヲ以テスルノ限ニ在ラス
總テ解職セラレタル者ハ自己ノ所為ニ
非スシテ職務ヲ執ルニ堪ヘサルカ為メ
解職セラレタル場合ヲ除クノ外退隱料
ヲ受クルノ權ヲ失フモノトス
三 懲戒裁判ハ内務大臣ノ命スル委員其審
問ヲ為シ内務大臣之ヲ裁決ス
内務大臣ハ懲戒裁判ノ裁決前吏員ノ傳

職ヲ命シ並給料ヲ停止スルコトヲ得

第六章 附則

第二百二十八條 此法律ハ明治二十九年四月一日ヨリ施行ス

第二百二十九條 此法律施行ノ際初テ議員ヲ選舉スルニ付都長官都參事會及都會ノ職務並都條例規則ヲ以テ定ムヘキ事項ハ内務大臣ノ指命スル官吏ニ於テ之ヲ施行スベシ

第二百三十條 現行ノ租税中此法律ニ於テ直接税又ハ間接税トスベキ類別ハ内務大臣及大藏大臣之ヲ告示ス

第三百一十一條 從來ノ東京市ノ營造物及市有財産ハ此法律施行ノ日ヨリ都ノ管理若クハ

所有ニ移ルモノトス

此法律施行ノ際從來ノ東京府ノ營造物及府有財産ノ處分方ハ内務大臣之ヲ定ム

第三百十二條 左ニ掲クル者ハ此ノ法律第八條二年都ノ住民ト為リ都ノ負擔ヲ分任レ及都内ニ於テ直接國稅年額五圓以上ヲ納ムル者ト看做ス

一 此ノ法律施行前二年以上東京市ニ住居シ東京府及東京市ノ負擔ヲ分任レ東京市内ニ於テ直接國稅年額五圓以上ヲ納ムル者仍引續キ都ニ住居シ都ノ負擔ヲ分任シ且都内ニ於テ直接國稅年額五圓以上ヲ納ムヘキ者

二 此ノ法律施行前後ヲ通算シ二年以上市及都ニ住居シ東京府東京市並都ノ負擔ヲ分任シ直接國稅年額五圓以上ヲ納ムル者

職ヲ命シ並給料ヲ停止スルコトヲ得

第六章 附則

第二百二十八條 此法律ハ明治二十九年四月一日ヨリ施行ス

第二百二十九條 此法律施行ノ際初テ議員ヲ選舉スルニ付都長官都參事會及都會ノ職務並都條例規則ヲ以テ定ムヘキ事項ハ内務大臣ノ指命スル官吏ニ於テ之ヲ施行スヘシ

第二百三十條 現行ノ租税中此法律ニ於テ直接税又ハ間接税トスベキ類別ハ内務大臣及大藏大臣之ヲ告示ス

第三百一十一條 從來ノ東京市ノ營造物及市有財産ハ此法律施行ノ日ヨリ都ノ管理若クハ

所有ニ移ルモノトス

此法律施行ノ際從來ノ東京府ノ營造物及府有財産ノ處分方ハ内務大臣之ヲ定ム

第三百十二條 此法律施行前二年以上東京市ニ住居シ東京府及東京市ノ負擔ヲ分任シ及東京市内ニ於テ直接國税年額五圓以上ヲ納メタル者尚京ニ住居シ引續キ京ノ負擔ヲ分任シ及京内ニ於テ直接國税年額五圓以上ヲ納ムヘキ者並二年以来市ト通シテ京ニ住居シ東京府東京市並京ノ負擔ヲ分任シ及直接國税年額五圓以上ヲ納ムル者ハ京制第八條二年以來京ノ住民トナリ京ノ負擔ヲ分任シ及京内ニ於テ直接國税年額五圓以上ヲ納ム

第百三十三條 現行ノ法律命令中府又ハ市ト
アルハ都府會又ハ市會トアルハ都會府會議
員又ハ市會議員トアルハ都會會議員府知事又
ハ市長トアルハ都長官府廳高等官トアルハ
都廳高等官府參事會若クハ常置委員會若ク
ハ常置委員常置委員會ヲ意又ハ市參事會ト
アルハ都參事會府參事會員又ハ市參事會員
トアルハ都參事會員名譽職府參事會員若ク
ハ常置委員又ハ名譽職市參事會員トアルハ
名譽職都參事會員市收入役トアルハ京收入
役市住民トアルハ都住民市公民本條ノ例ニ依ラザルハ都
公民ト看做シ其他此例ニ依ル但命令ヲ

以テ之ヲ定ム

第百三十四條 明治二十三年ノ法律第三十

九號水利組合條例ニ依リ設置シタル水利組
合ハ此法律施行ノ為メ消滅セサルモノトス

第百三十五條 衆議院議員選舉區東京府第一

區乃至第九區ハ従前ノ區域ヲ存シ東京都ノ第一
區乃至第九區トハス

東京府第一區乃至第九區選出衆議院議員ハ
東京府第一區乃至第九區選出ノ議員ト看做シ其

任期間在職スヘキモノトス

第百三十六條 貴族院多額納税者議員及衆議

院議員ノ選舉及被選舉資格中其年限ニ関ス
ルモノハ此法律施行ノ為メニ中断セラル

コトナシ

第百三十七條 内務大臣ハ此法律施行ノ為ニ必要ナル命令ヲ發布スベシ

武藏縣設置法律案

第一條 武藏縣ヲ置ク其管轄區域ハ東京府制ニ依リ都ト為ス區域ヲ除クノ外從來東京府ノ管轄セシ區域トス

縣廳ノ位置ハ勅令ノ定ムル所ニ依ル

第二條 衆議院議員選舉區東京府第十區乃至第十三區ハ從前ノ區域ヲ存シ順次武藏縣第一區乃至第四區トス

東京府第十區乃至第十三區選出現任衆議院議員ハ武藏縣第一區乃至第四區選出ノ議員ト看做シ其任期間在職スヘキモノトス

第三條 武藏縣縣會議員ヲ新ニ選舉スル場

秘

合ニ於テ議員ノ員數ハ府縣會規則第十條ニ依リ武藏縣知事之ヲ定ムヘシ但次回ノ改選以後ノ員數ハ府縣會規則第十條ニ依リ武藏縣縣會ノ議定スル所ニ依ル

此法律施行ノ前東京府ニ於テ確定シタル府會議員選舉人名簿ハ府縣會議員選舉規則第十三條選舉人名簿改正期日迄武藏縣縣會議員選舉人名簿トシテ其効ヲ有スルモノトス

第四條 貴族院多額納税者議員衆議院議員及縣會議員ノ選舉及被選舉資格中其年限ニ關スルモノハ此法律施行ノ為ニ中断セラルルコトナシ

第五條 本法ハ明治三十九年四月一日ヨリ施行

ス

第六條 内務大臣ハ此法律施行ノ為ニ必要ナル命令ヲ發布スヘシ

付箋

本業ノ旨旨於テ別ニ異議ナシト宣旨先年ノ比ガ会社ト三夏分社ト競争ノ際
一時所行シタル事トモ之ヲ以テ覺レ就テ違行有テ於テ事ト是迄ニ調アリタル上モヤ
思必要ナレト我ナレ本業ニ成回意スレ

少

本業ノ旨旨於テ別ニ異議ナシト宣旨先年ノ比ガ会社ト三夏分社ト競争ノ際

一時所行シタル事トモ之ヲ以テ覺レ就テ違行有テ於テ事ト是迄ニ調アリタル上モヤ

思必要ナレト我ナレ本業ニ成回意スレ

付箋